

## 冬の使者「白鳥の生態」 写真家名村一義さんを訪ねて

温厚な人柄、穏やかな話ぶり、78才とは思えぬワンカットの映像にかける思い。そして、その厳しい目は、白鳥の生態にあふれる情熱を秘めておられるのを感じた。

昭和46年脱サラして新宮町に写真館を自営され、38年続いた。

平成11年、写真集「SWAN SONG」に出会って衝撃を受け、「いつかは自分も挑戦してみたい」と思うようになった。その7年後の平成18年から始めた白鳥



テイクアップ（飛び立ち） 瓢湖にて

の生態写真は、70才で仕事をリタイヤした今も続いている。

いままで、撮りためた白鳥の写真は1万有余。それでもまだ物足りず、あと3回の撮影行を計画されている。そして、平成30年中には写真をまとめて自費出版を予定とのこと。撮影には、いつも現地白鳥の飛来情報、気象条件を読み1週間から10日ほど滞在されるそうで、主に福島県猪苗代湖、檜葉町、新潟県瓢湖などに向かわれる。

名村さんが撮られる白鳥写真は、ワンカットワンカットにドラマを感じる。しかも、東北の冬景にマッチし白鳥の優美さが映える。反面、厳冬での厳しい採餌活動などの写真は、私たちにはなじみが薄い感動的なショットで



撮影中（猪苗代湖青松浜にて）

ある。

繁殖地のシベリアと越冬地の日本を行き来している白鳥は、8000kmを旅している。そしてそれは「渡り鳥としての宿命を背負って生きている」…と名村さんは語られた。その言葉を聞いて、地球環境が変化するなか、これから先も、共に生きることは続くのだろうかと思う。

【取材・文責：宮田直美】

## さつまいも収穫祭

太子町阿曾住みよい里づくり協議会主催

11月5日（日）阿曾ランプ下の畑で「さつまいも収穫祭」が実施された。天候不順で夏の暑さや秋の雨の多さに生育を心配したとのことだ。関係者一同「さつまいもの入り」の予想もつかず、少しでも良い出来栄えをと、たびたび畑に出向き、魔法？をかけたとか・・・10月下旬に予定していたが雨のため一週間後に延期した。

当日は朝から秋晴れの好天気となり、参加者の足取りも軽くさつまいも堀りを楽しみにされて



地元のスタッフの皆さん

いる様子が「ながぐつにスコップ」そして、大きな袋という「出で立ち」で、さあ！掘るぞという意気込みが感じられた。

心配していたとおり場所に（区画）により、たくさんとれて喜んでいる所やさっぱりとれず残念がっている所があり、見守る関係者もハラハラ、ドキドキ、一喜一憂の芋堀りとなった。

その代り、イベントの「スクモ（もみがら）の焼き芋」が大人気！行列が出来るほどでした。焼き芋担当者の元気な声が秋空に飛び交っていた。子どもも大人も焼き芋を手に「あっつ、アチッ」と言いながらおいしそうにほおばっていた。

家族連れで参加された方は、収穫も楽しみだが子どもに自然に触れる体験をさせたいと思っ



さつまいも堀体験中

た。また、ある家族はシート持参で、毎年参加し半日遠足ごっこをするのを楽しみにしているとのことだ。

自然現象には勝てないが、今日は天候にも恵まれ、自然への感謝と土に触れる体験を楽しんでいただき、うれしい限りですと自治会長は話された。

【取材・文責：西村光代】